【論　文　提　出　者】　社会文化科学教育部　　文化専攻　歴史学領域
氏名　藤井 太郎
【論　　文　　題　　目】　18 世紀ニューイングランド漁業が構築した環大西洋交易圏の歴史的意義

【授与する学位の種類】　博士（文学）

【論文審査の結果の要旨】

藤井太郎氏の博士論文「18 世紀ニューイングランド漁業が構築した環大西洋交易圏の歴史的意義」は、タラ商人の手書き文書を読み解きながら、18 世紀ニューイングランド・タラ漁業の環大西洋的発展とその意義を実証的に考察した本邦初の研究であり、今後、多くの日本人研究者にとって、当該問題に関し、参照すべき基本文献となる優れた学術研究である。審査委員会は、本教育部に提出する学位論文として、博士号にふさわしいとの判断に至ったことを、ここに報告する。

本論文の示す新知見および独創性は、まず何よりも、①18 世紀ニューイングランド・タラ漁業の中軸となった漁港都市マーブルヘッドに焦点を当て、地域社会・地域住民の公益を重視した「第 1 教会」に集う新興のタラ商人によって、ロンドン商人を頂点とする「17 世紀型」タラ交易ネットワークが解体され、本国の海運・流通システムに従属しない、そしてまた、仏領や蘭領と結びついた巨大な密貿易圏を包摂する、独自の環大西洋交易圏が構築されたことを明らかにしたことであり、そして、②1760 年代半ば以降に、こうした交易圏の発展を危険視し、取り締まろうとしたイギリス「重商主義的植民地体制」利害との政治的衝突の中で、それまで競合的であったボストンやマーブルヘッドなどの漁業コミュニティが、「ニューイングランド漁業」という政治的一体性とアイデンティティを形成していったことを、アメリカ独立革命を展望しながら明らかにしようとした点である。このように本論文は、漁業史という枠組みを超えた、「アトランティック・ヒストリー」、「グローカル・ヒストリー」の見事な実践となっている。また、実証が難しい密貿易に関する新たな書簡の発見と読解は本論文の重要な成果の 1 つであり、なかでも、ボストン商人によるノヴァスコシアの仏領植民地ルイブールとの密貿易の考察は（第 3 章）、これまでカリブ地域にばかり力点が置かれてきた密貿易に関する先行研究に対して、北方（ニューファンドランドやノヴァスコシア）の密貿易の重要性を提起するものとなっている。今後、一層の実証作業を通じて、カリブならびに北方の両仏領植民地との取引を中心とした、イベリア市場も包摂する、ニューイングランド漁業の帝国横断的で巨大な環大西洋・密貿易圏が明らかにされることを、大いに期待したい。

本論文の研究成果は、すでに全国規模の複数の学会で発表されており（アメリカ経済史学会、社会経済史学会全国大会、九州史学会）、常に非常に高い関心を得てきた。また、本論文に基づく研究プロジェクトは、日本学術振興会若手研究者海外挑戦プログラムに採択され（マサチューセッツ州立大学ボストン校にて、2022 年 12 月から 2023 年 8 月まで、客員研究員として研究に従事）、本論文の一部は、すでに査読付き学会誌に採録されており（藤井太郎「18 世紀ニューイングランド漁業の環大西洋的発展と経済的自立化―マサチューセッツ植民地マーブルヘッドを事例として―」『西洋史学論集』第 60 号、2023 年 3 月刊、37－68 頁）、こうした点からも、学術的な新知見や独創性が評価されていることが認められる。

以上のことより審査委員会は、博士の学位を授与するにふさわしいと判定した。

【最終試験の結果の要旨】った。

藤井太郎氏が提出した博士論文に対して、審査委員全員の出席のもと、2024 年 1 月 9 日に審査委員会を開催し（16 時 40 分～18 時 20 分、応接室）、口頭発表ならびに試問を行った。

藤井氏は、18 世紀ニューイングランド漁業に関する重要な先行研究を行ったスティーヴン・ホーンズビー氏（メイン大学）やクリストファー・マグラ氏（テネシー大学）をアメリカ留学時に訪れ、両氏と議論をする貴重な機会をもったことから、先行研究についての背景的な知識も豊富であり、また、タラの加工や漁に関する技術的側面の質問についても、非常に詳細かつ的確に回答した。試問では、ニューファンドランド島への出稼ぎ労働者の中心を占めたアイルランド人とニューイングランド漁業との関係、マーブルヘッド・タラ漁業の自立的発展を切り開いた第 1 教会牧師の役割、密貿易に関する同時代人の認識、1764 年砂糖法についての本論文での新たな位置づけがもつ意味、イギリス海軍によるニューファンドランド島沖での密貿易取締りの法的根拠など、議論が広範かつ細部にわたって行われたが、藤井氏のこれまでの研究活動を通じて鍛え上げられた学識が、大いに披露された。

また、研究成果を査読付き学術誌にすでに公表していることや、ボストンへの留学を通じて新たなタラ商人書簡の読解と分析を深めていったことも高く評価され、今後の研究活動が大いに期待される。

よって、藤井太郎氏は、博士の学位を授与されるにふさわしい学識と研究遂行能力を有しており、最終試験を合格と判定した。

【審査委員会】

主査　三瓶 弘喜

委員　中川 順子

委員　新井 英永

委員　春田 直紀